

平成 30 年度 勝山市地方創生総合戦略及び地方創生交付金等事業 における外部評価結果について

1 評価の実施について

地方創生の推進にあたっては、国から、効果的な PDCA サイクルの構築により地方創生総合戦略自体とそれに係る交付金等事業の効果検証を行うこととされている。

本市においては、勝山市地方創生総合戦略と市が採択を受けた地方創生交付金等事業に係る平成 30 年度の事業進捗状況について、産官学金労言の代表者により構成された「勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議」による外部評価を実施した。

2 評価基準

(1) 内部評価

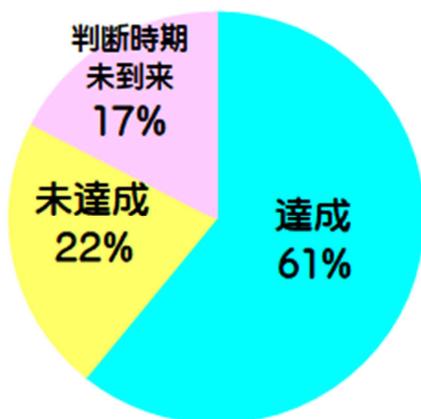
重要業績評価指標（KPI）の達成度のほか各施策における H30 の実績、R1 以降の課題と対応策について、事務局及び担当部署が内部評価を実施した。

- ① 勝山市地方創生総合戦略の重要業績評価指標（KPI）の評価結果（23 項目）
- ② 地方創生交付金等事業の重要業績評価指標（KPI）の評価結果（25 項目）

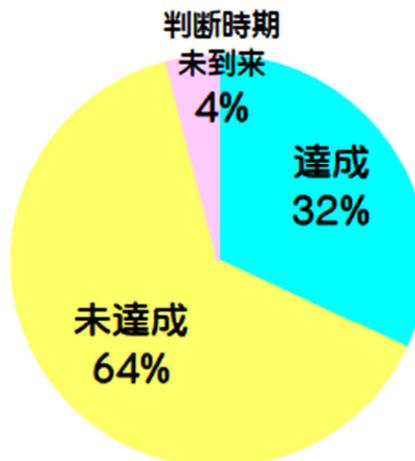
※目標値に対する実績結果により「達成」、「未達成」、「判断時期未到来」を判定

- ①の達成率は上昇したが、① H29_57% → H30_61%
- ②の達成率は下降② H29_39% → H30_32%

① 勝山市地方創生総合戦略
の KPI 評価結果



② 地方創生交付金等事業
の KPI 評価結果



(2) 外部評価

内部評価書をもとに専門的見地から意見を聴取し、その意見を今後の政策に反映するため、事務局及び担当部課長が出席し、勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議において外部評価を実施した。

委員から提出された各施策や KPI に対する多数の意見を資料の「委員の意見欄」に記載し、今後の政策推進の参考とする。

No	担当課	担当課	頁
重点戦略 1	ジオパークの豊かな自然と歴史の中に暮らす魅力を高め、定住化を促進する	商工観光・ふるさと創生課 ジオパークまちづくり課 農業政策課 未来創造課	Page 1
重点戦略 2	勝山市の地域資源をさらに磨き、U・Iターンに向けた多様な仕事と需要を生み出すなど、多様なチャレンジが可能な仕組みをつくる	商工観光・ふるさと創生課 農業政策課 林業振興課 ジオパークまちづくり課	Page 4
重点戦略 3	縁結びから子育て、教育まで、充実した環境の中で、勝山を誇れる次の世代を育てる	健康長寿課 福祉・児童課 学校教育課 未来創造課	Page 7
重点戦略 4	豊かな地域コミュニティの中で、いつまでも健康で、安全・安心に暮らせるまちを創る	健康長寿課 市民・環境・税務課 商工観光・ふるさと創生課 総務課 都市建設課 ジオパークまちづくり課 未来創造課	Page 9

重点戦略1 ジオパークの豊かな自然と歴史の中に暮らす魅力を高めて、定住化を促進する

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	転入者人口(人)	目標値	—	427	431	435	439	443	未達成	●目標に対して実績が右肩下がりとなっていることから、現状をしっかりと分析し、効果的な施策を検討してほしい。
		実績値	423	433	420	411	401			
2	うち市の支援を受けて転入した人の数(人) ※H27～R元累計	目標値	—	3	4	12	16	20	達成	●転入者の増加に対し効果的と考えられる支援を継続してほしい。
		実績値	3	3	10	61	113			

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(平成30年度)	課題と対応策(令和元年度以降)	委員の意見
1	ふるさと勝山への移住・定住促進に関する情報発信の強化	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●勝高同窓会会報の発送時や勝山市成人式の機会をとらえ、U・Iターン推進のチラシやそれに係る補助制度の情報を提供。 ●新たな取組みとして、勝山市を愛する気持ちを醸成するため、市の出身者で全国的に活躍している方や市内の魅力的なスポット紹介を行うフリーペーパー「ROOTs」を制作し、ふれあい市民の方々に配布。 【H30実績】全2回配布 	<ul style="list-style-type: none"> ●移住・定住に特化した情報の発信だけでは、他自治体と大きな差が付きにくく、効果も出にくい。まずは、勝山市としてのシティプロモーションやふるさと納税額の増大をベースとした住環境の充実等の総合的な対策が重要であり、今後、地域おこし協力隊などIターン者の意見を踏まえつつ、「住む・働く」をパッケージ化した新たな対策を講じながら、情報発信を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●転出が増加しているため、特にUターンに力をいれて施策を考えてほしい。 ●県内の転出先は福井市が多いことから、福井市への転出者にターゲットを絞った施策を考えてはどうか。 ●近年、外国人の就業者や技能実習生が増加傾向にあることから、ある程度実数を把握したほうが良い。
2	U・Iターン者の住まいや仕事探しに向けた支援の強化	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●ふるさと勝山移住定住促進事業として、移住者へ家賃助成等の支援や市外通勤助成を実施したほか、新たにUターン者に対する奨励金制度を創設。 【H30実績】 家賃助成：26件 2,890千円 市外通勤：2件 42千円 引越費用：10件 691千円 Uターン奨励金：12件 600千円) ●地方創生交付金を活用し、市内企業の求人を支援するための情報発信ツール(企業紹介冊子「いんとろ」やそれにリンクしたHP)を作成したほか、市内就職者増加に向けた市内企業支援を実施(インターンシップの強化等)。 	<ul style="list-style-type: none"> ●市内には住宅手当交付の企業が少なく、単身用の賃貸物件が少なく、家賃負担を軽減する助成申請が非常に多い。ただし、依然として、助成金がインセンティブとなって転入する例はまれであり、今後制度の抜本的な見直しが必要である。 ●市内企業の求人支援については、事業への参加企業の増加にあわせ、市内就業者の拡大に向け、インターンシップの内容充実など具体的な対策を講じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●支援制度を利用した移住者の意見などを参考に、支援制度の見直しを検討すべき。 ●市内企業のインターンシップは、受け入れ側の企業の要望等も十分に考慮ながら充実を図ってほしい。
3	勝山暮らし・田舎暮らし体験の充実	商工観光・ふるさと創生課 農業政策課	<ul style="list-style-type: none"> ●お試し移住体験施設は、全国的に同様のものが増加しているが、現在も一定の利用者がある。(H30:10団体、130泊)しかし、移住に直接結びつく例は少なく、上述の補助制度見直しにあわせ、利用方法の増加に向けた効果的な方策もしくは、今後の利用継続の是非について検討する。 ●1日～数日間、農家に宿泊しながら農作業等の田舎暮らしを経験する体験メニューを実施した。 【H30実績】 延べ124人 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係人口を定住人口につなげていくよう、そこに求められるハード・ソフト両面での支援策を、地域おこし協力隊をはじめとしたIターン者と意見交換するなかで、具体的に検討する。 ●田舎暮らし体験については、主に5つの体験メニューがあるが、人気のある体験メニューとそうでない体験メニューに差がでてきた。引き続き、受入農家数を増やししながら、魅力ある体験メニューを開発し、申込者の選択肢を広げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●転出超過が進む中、関係人口を増やすことがまず重要になってくることから、関心の高いメニューを検討すべき。

4	U・Iターンの促進に向けたインセンティブの強化	商工観光・ふるさと創生課	<p>●U・Iターンの促進による地方創生の実現に向け、補助金制度の拡大等を図った。(上述のとおり)これにより、移住にあわせて市の窓口を活用して、支援を受ける人数は依然として増加している。</p> <p>【H30実績】 H29:51名 H30:52名</p> <p>●Iターン者の積極的な確保という観点から、確保に苦慮していた「地域おこし協力隊」の採用条件について大幅な見直しを図り、新年度の採用者増加に備えた。</p>	<p>●市の補助制度の活用は年々、増加傾向にあるものの、活用されるものとあまり活用されないものとの差が明確になりつつある。</p> <p>●本年度をもって、概ね3年程度の期間が経過することから、U・Iターンの促進につながるインセンティブとなるものとそうでないものを見極め、制度の創設・改正・廃止を行う。</p>	<p>●転入者にヒアリングを実施し、支援制度がインセンティブとなっているかについて分析し、制度をブラッシュアップしていくべき。</p>
5	地場産業への理解を通じた定住促進	商工観光・ふるさと創生課	<p>●若年層には市内企業の魅力が十分に伝わっていないどころか、その存在すら知られていないのが実状である。その情報をわかりやすく伝える情報発信対策として、あらたな企業紹介冊子「いんとろ」の配布やそれにリンクしたポータルサイトの作成を行ったほか、次年度に備え、若年層が市内企業を体験できる仕組みの検討を行った。</p>	<p>●新たに作成した企業紹介冊子(全戸・地元高校生配布)やホームページへの参画企業拡大とPR活動の徹底により、情報発信力を強化する。</p> <p>●さらに、中高校生が市内企業を具体的に知るプログラムや企業インターンシップ・企業プレゼン能力のレベルアップにつながる対策に市内企業と連携して取り組む。</p>	<p>●転出抑制、Uターンの増加に向けて、特に高校生を対象とした効果的なアプローチ方法を検討すべき。</p>
6	若い世代の流出抑止に向けた専門学校等の誘致	未来創造課	<p>●将来的な誘致に向けて、協定を締結している大学を中心に、連携事業を実施した。また、市の各種審議会等への委員の派遣等により、専門的知識の習得に効果があった。</p> <p>【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップや協定大学の教授を招いた連携アカデミーの実施(2事業) ・TGRラリーチャレンジin恐竜勝山2018等の各イベントにおけるボランティア協力等の連携 ・福井県立大学からソーシャルワーク実習を受入 ・日本大学芸術学部とコラボした「ふるさと勝山回帰ショートムービー」を作成、ホームページにてPR 	<p>●協定を締結している大学のほか、県内・県外大学を対象に、市の課題解決を研究テーマとしたフィールドワーク等を実施し、官学互いにメリットがある質の高い連携事業に取り組む。</p>	<p>●箱物整備による誘致だけでなく、IT環境などを活用するなど、新しい形の教育体制も模索するとよいのではないかと。</p> <p>●将来的な大学等の誘致も視野に入れて、官学お互いにメリットがある連携事業を推進していくべき。</p> <p>●福井県立大学からのソーシャルワーク実習の受け入れについては、お互いにメリットがあるような形で継続していくべき。</p>
7	国の機関や県等と連携した事業展開	商工観光・ふるさと創生課	<p>●国や県の補助金を活用した事業に多数取り組むことにより、市の財政の圧迫を避けることができることから、活用する事業数は年々増加している。</p> <p>●平成30年度においては、県の新ふるさと創造推進事業やよろず来住者支援事業、国の地方創生交付金事業を活用するなかで、上述の各種事業に取り組んだ。</p>	<p>●国、県の補助事業を活用して実施したこれまでの事業を十分精査し、勝山市の魅力発信、地域経済の発展に結びつく補助については、現行事業の継続的な発展をベースとして、積極的に活用していく。</p>	<p>●全国の自治体でU・Iターン施策を展開する中で、市単独の取り組みでは限界があることから、国、県の補助事業をしっかりと活用する中で、勝山市独自の魅力を発信すべき。</p>
8	魅力ある定住先としてのジオパークの魅力発信	ジオパークまちづくり課	<p>●恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会内で連携してのジオツアーやジオパークフェスタ等を開催した。市民がジオパークの理念と勝山市の素晴らしさを再認識することで、各地区の「まちづくり・ひとづくり」に繋げるきっかけづくりとなるとともに、市外からの参加者に対して勝山市の魅力を存分に発信できた。</p> <p>●小中学校に対し、ジオパーク学習を各教科及び総合的な学習の時間と連動して行うとともに、新たにかつやまこどもの村小中学校に対してもジオパーク学習を行った。また「かつやま環境フォーラム」では親子でSDGsやジオパークを学べる講演会等を開催し、小中学生が親子で一緒に環境やジオパークを学べる試みを行った。</p> <p>●ジオパークガイドの会のフェイスブックページを作成し、ガイドの依頼がワンストップで出来る体制作りを推進した。</p> <p>【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民による主体的なまちづくり活動への助成研修 16事業 ・市内小中学校等を対象としたジオパーク学習の実施 20回 ・自然体験学習等の実施 参加者数 1,405人 ・ガイド養成講座参加者数 14人 	<p>●恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会内での横の連携強化や市外からの多くの観光客を呼び込める方策の検討・実行を目的に「ジオツーリズム部会」を立ち上げ、様々な取り組みを行っていく。</p> <p>●令和元年度は、4年に1度の日本ジオパーク再認定現地審査の年である。勝山市として審査を通過することはもちろん、これを機会をチャンスと捉え、勝山市のジオパーク活動を市民全体で見直し、今後の持続可能な体制作りや事業の再構築の足がかりとしていく。</p>	<p>●恐竜やジオパークは、勝山市独自の魅力であり他自治体と比較してアドバンテージであることから、積極的に発信し有効に活用してほしい。</p>

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	田舎暮らし体験者数(人) ※H27～R元累計	目標値	—	100	200	300	400	500	達成	●目標を上回る実績となっているが、関係人口の増加に向けて、さらに実績が上がるようメニューのブラッシュアップを検討すべき。
		実績値	98	198	380	561	685			
2	市内企業説明会に参加した勝山市の高校生の人数(人)	目標値	—	42	44	46	48	50	未達成	●高校生だけを対象とした指標になっているが、現状では中学生に対しても企業説明会を実施している。これからも中高生ともにしっかりとアプローチしてほしい。
		実績値	38	38	40	39	38			
3	UIターンに関して国や県と連携して行った事業数(件) ※H27～R元累計	目標値	—	1	2	3	4	5	達成	●国や県と連携しながらも、各自治体横並びにならないよう勝山市独自の魅力を発信できるよう創意工夫すべき。
		実績値	—	2	5	9	12			

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	観光入込客数(万人)	目標値	—	175	180	186	193	200	達成	●観光入込客数を目標にすることは必要だが実数が掴みにくく点もある。今後は、観光客の滞在日数をいかに増やすかが課題である。
		実績値	171	203	199.5	217.6	210.7			
2	観光消費額(億円)	目標値	—	28	29	30	32	34	達成	●観光消費額についても実数が掴みにくい、算出方法を決めて数値を算出していくべき。
		実績値	27	27.67	32.5	47.73	47.65			

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(平成30年度)	課題と対応策(令和元年度以降)	委員の意見
1	観光まちづくりを進めるDMOの形成	商工観光・ふるさと創生課	●花月楼の運営に加え、平成30年4月から「勝山市ジオターミナル」の運営を開始した。 【H30実績】 花月楼の年間売上 : 20,077千円 【H30実績】 ジオターミナルの年間売上 : 189,168千円	●「勝山市ジオターミナル」のお土産等販売益を今後の観光まちづくりのためのDMO運営の収益の柱としていく。 ●令和元年度は、勝山市道の駅「恐竜渓谷かつやま」のオープン準備をすすめる。道の駅、花月楼、ジオターミナルとあわせた3拠点が完成することで、DMOとしての活動を本格化していくことができる。	●観光産業はオンシーズンとオフシーズンの差が大きくなることから、オフシーズンにいかに観光客を増やせるかが重要である。 ●オフシーズンに市内宿泊客を増やす仕掛けが必要。
2	勝山市の地域資源を活かした観光・交流拠点の整備	商工観光・ふるさと創生課			
3	観光における他市町との連携	商工観光・ふるさと創生課	●広域組織「越前加賀インバウンド推進機構」において、各市町と連携した出向宣伝や海外メディア・旅行エージェントの招聘による営業活動等を実施した。	●各市町との連携事業は観光客数やインバウンドの増加に効果を発揮しており、新たな周遊の体験ツアー造成やインバウンド観光の推進に引き続き取り組む	●観光客の誘客に向けた出向宣伝等は他市町と連携して実施したほうが効果的であると考えられるが、その中でも恐竜やジオパークといった勝山市独自の魅力を活用し差別化を図る必要がある。
4	インバウンド観光の促進	商工観光・ふるさと創生課	●平成28年に設立された「越前加賀インバウンド推進機構」を中心に、地方創生推進交付金を活用したインバウンド観光推進事業を実施。	●インバウンド対応が遅れており、認知度も低い現状より、海外でのセールスコール・商談会を行うとともに、海外メディアの招聘など情報発信を進める。	●外国人観光客が安心して観光できるよう地域に特定した通訳の導入を検討してはどうか。 ●SNSなどのビッグデータを解析し外国人観光客の行動様式を分析し、その上でターゲットを絞って勝山市の魅力アピールしていくべき。その役割を勝山市観光まちづくり棟担うので、しっかりとしたサポート体制を構築する必要がある。

5	観光の産業化に向けた特産品・土産品開発と新たな勝山ブランドの創造	商工観光・ふるさと創生課 農業政策課	<p>●令和2年春オープン予定の道の駅などで販売する土産物の開発、新たな勝山ブランド創出のため、「勝山市おもてなし商品開発等支援事業」を実施する。また、従来の商品のブラッシュアップのため、勝山市商業支援コーディネーター（中小企業診断士）よりアドバイス支援を実施。</p> <p>【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北谷町特産品「鯖の熟れ鮓し」の贈答品用商品開発及び販路の拡大 ・勝山市の特産品を使った「テイクアウト商品」の開発 ・奥越産そば粉を使った「乾麺」の開発及び勝山市の名産品とのコラボ商品の開発 ・勝山が世界に誇る「恐竜」をアレンジした子ども向けコスチュームの開発 ・6次産業化新商品「白山平泉寺のお魔滅」の開発。平泉寺の「滝本ファーム」が地元で採れる大豆を独自の技術による製造法でポン菓子に加工した商品。3種類の味（塩昆布、黒砂大麦、青海苔）がある。※県の6次産業化プランナーのアドバイスを受けて開発。 ・「鯖の熟れ鮓し」リーフレット、のぼり旗、新パッケージの開発。NPO法人きただに村が鯖の熟れ鮓しのさらなるPRのために開発した。※県の6次産業化プランナーのアドバイスを受けて開発。 ・「里芋チョコレート」の開発。※ふるさとの味かつちゃんが開発した商品。 	<p>●福井県立恐竜博物館前の飲食物販施設「勝山市ジオターミナル」の建設、市内飲食店の改修、そして令和2年春には道の駅がオープンするなど、勝山市内での飲食や販売の体制が整備されてきている。提供するメニューや土産物などをブラッシュアップし、観光客のまちなか誘客、周遊を図る。</p> <p>●令和2年春オープン予定の道の駅で販売するテイクアウトメニューの開発を支援し、観光客に「名物」として認知され、永く愛される商品の開発を目指す。</p> <p>●道の駅のオープンを見据え、勝山市の既存特産作物を生かした商品開発が課題となっている。県とも連携し、6次産業化プランナーを活用した商品開発の普及に努めることで、農業者の収入増加を支援したい。</p>	<p>●道の駅で販売するお土産物については、市の特産品である鮓やエゴマ、熟れ寿司、恐竜などを活用した商品で開発すべきである。</p>
6	農業における収益性と魅力の向上	農業政策課	<p>●エゴマを勝山市の特産品とするため、平成29年度より創設した勝山市特産作物生産拡大出荷奨励事業では、エゴマの栽培に取り組む生産者の出荷に対して補助金を交付した。</p> <p>【H30出荷量】 1188.9kg（補助対象者数：30件） 【H29出荷量】 1449.8kg（補助対象者数：28件）</p>	<p>●「道の駅」のオープンを見据え、勝山市の既存特産作物の生産拡大と新たな農作物等の特産化が喫緊の課題となっている。令和元年度より、水田以外で作付されたエゴマも補助の対象とし、生産拡大につなげるとともに、エゴマ以外の作物の新たな補助メニューの構築を検討する。これにより、農業者をはじめとした事業者の収入増加を支援したい。</p>	<p>●道の駅で農作物等を販売することにより、生産者と消費者が近くなり、消費者の声がダイレクトに生産者に届くことになる。マーケットインの考え方を取り入れて農作物の生産や特産化が図られるよう期待する。</p>
7	金融機関と連携した地元企業の支援	商工観光・ふるさと創生課 農業政策課	<p>●中小企業の経営の安定と振興のため、次の支援を実施した。</p> <p>【H30実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中小企業振興対策資金 24件 115,380,000円 ・小規模企業振興対策資金 6件 17,500,000円 ・新規開業資金 2件 18,000,000円 <p>●市の融資を受けた市内の企業者に対して金利負担を軽減するため、利子補給を行った。</p> <p>【H30実績】 141件 2,787,300円</p> <p>●「小規模事業者キャッシュレス決済推進事業」の実施した。</p> <p>【平成30年度補助金申請者数】 1件</p>	<p>●増税対策として国の方で実施する「キャッシュレス・消費者還元事業」においてキャッシュレス端末への導入補助もを行うため、金融機関と連携し補助事業を周知し、キャッシュレス端末の普及に務める。</p>	<p>●勝山市に訪れる観光客が確実に増加している中で、決済手段も多様化しつつある。今のところキャッシュレスは浸透していないが、さらなる観光客の増加に向けてキャッシュレスの導入を推進していくべき。</p>
8	市民のチャレンジを応援	ジオパークまちづくり課	<p>●勝山市わがまち助成事業に、市内の若者グループや地域で活動する女性グループ等より新たなチャレンジにつながる6件の申請があった。中でも勝山市の夏祭りを地域住民と小学生が一丸となって盛り上げることを目的に、せいき灯りまつり実行委員会が行った「こどもたちの灯りまつり」は、従来の灯りまつりをさらに盛り上げるとともに、地域・家庭・学校が一体となった素晴らしい取り組みともなった。</p>	<p>●次代を担う若者たちの潜在的な欲求に応えられるよう、公民館等を通じ、各地区の若者や女性団体への周知を強化する。</p>	<p>●補助がある間だけ事業が継続されるのではなく、補助がなくなった後も自走できるような事業を育てる視点が必要。</p> <p>●対象となる団体等の範囲を広げて意欲ある取り組みを支援すべき。</p>

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標 (KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	勝山市中心市街地への入込客数 (万人)	目標値	—	27	27	30	33	40	未達成	●中心市街地の入込客数の把握が難しいことは理解できるが、戦略内に入込客数を増やすための具体的な政策の記載がない。
		実績値	27	24.7	22.8	23.5	18.7			
2	新たに設置する日本版DMOの数 (組織)	目標値	—	—	—	—	—	1	判断時期未到来	●目標はDMOの設置となっているが、これからはDMOを活用して観光の産業化にいかに取り組むかが重要である。
		実績値	—	—	—	—	—			
3	勝山市における外国人延べ宿泊者数 (人)	目標値	—	1,860	1,890	1,930	1,980	2,050	達成	●宿泊客数も重要だが、今後は滞在日数を伸ばしていくことも考えなければならない。
		実績値	1,840	3,499	2,689	3,721	2,499			
4	新たに開発した「かつやま逸品」の数 (商品) ※H27～R1累計	目標値	—	13	14	14	15	15	達成	●開発数は順調に伸びているので、有効に活用して特産化を目指してほしい。
		実績値	13	16	17	19	23			
5	鳥獣害による被害面積率 (%) ※米、麦、そばの作付面積比	目標値	—	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	1%以内を維持	達成	●鳥獣害対策に得策はないが大きな問題と認識して被害防止を推進してほしい。
		実績値	1.37%	1.59%	1.88%	0.73%	0.51%			
6	市内中高生および若者によるまちづくり団体への助成件数 (団体) ※H27～R1累計	目標値	—	16	23	31	40	50	未達成	●実績は目標にわずかに届かないが順調に数を増やしている。今後も継続してほしい。
		実績値	10	18	26	31	37			

重点戦略3 縁結びから子育て、教育まで、充実した環境の中で、勝山を誇れる次の世代を育てる

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	合計特殊出生率	目標値	—	—	—	—	—	1.65	判断時期未到来	—
		実績値	1.53	—	—	—				

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(平成30年度)	課題と対応策(令和元年度以降)	委員の意見
1	婚活情報発信等の強化	福祉・児童課	<ul style="list-style-type: none"> ●福井婚活カフェホームページや市ホームページ、フリー情報誌(県外含む)、市広報を通じた宣伝に加え、市内の企業を訪問し、人事担当者等に結婚相談やイベント紹介を行った。あわせて、市のイベントに参加しやすい環境づくりにも協力いただいた。 【H30実績】 フリー情報誌：5回掲載 企業訪問：12企業(イベント参加者あり) 	<ul style="list-style-type: none"> ●結婚(交際)は、個人の考え方の違いやプライベートに関するものであり、押しつけはできない。相談しやすい体制や男女の交流イベントに参加しやすい環境を整えることが重要であり、今後も、パワハラやセクハラにならない程度に企業への協力を得ながら、引き続き、企業に対し、従業員へのイベント紹介等を実施予定である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●若い世代の人口が減少する中においても未婚率が上昇している。引き続き、婚活情報の発信を強化し、未婚率が少しでも改善するよう取り組んでいきたい。
2	地域行事・活動等を通じた出会いの場の創出	福祉・児童課	<ul style="list-style-type: none"> ●県外女性と市内男性等によるまちなか散策やスポーツを取り込んだイベントを実施した。 【H30実績】 ・男女の交流イベント 2回(H29:3回) ・県外女性と市内男性等の男女交流会：23名(ジオアリーナで饅頭まき、パラグライダー体験、恐竜博物館、市内散策) ・革のキーホルダーづくりと食事会の交流会：16名 ・料理教室 1回 15名(H29:1回) ・イベント終了後の担当職員によるフォローアップの実施 ・成婚件数 1件 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成29年度に引き続き、県外女性と市内男性等によるまちなか散策やスポーツを取り込んだイベントを実施したところ、特に県外女性からは、非常に高い評価を受け、勝山の住みやすさを理解し定住したいという人も現れた。交際に発展し、結婚に至ったカップルもあったことから、体験型(スポーツ含む)のイベントを取り入れたイベントを継続的に実施予定。 ●対象者の年齢を絞った企画、趣味を同じくする男女の交流イベントなどコミュニケーションが図れるような場を提供できるよう検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●世代によって結婚に対する価値観が異なることから、相談者の声を反映したイベント等を企画していただきたい。
3	子育て支援の充実とPRの強化	健康長寿課	<ul style="list-style-type: none"> ●子育て世代包括支援センターを周知するため、パンフレットを作成し、保育園と連携してPRを行った。(配布数：1,000枚) ●福井勝山総合病院と連携し、母乳相談の利用回数と期間を拡大し、産婦健診を実施した。また、産婦人科医療を充実を支援するために、ガバメントクラウドファンディングを実施し、集まった寄付金と合わせて500万円を病院に寄付した。 【H30実績】 ・母乳相談：実人数41人、延べ人数51人 ・産後2週間健診：8件 1ヶ月健診：31件 ・ガバメントクラウドファンディング寄付者68人 1,925,000円 ・産婦人科医師による子育て講演会 1回 参加者24人 	<ul style="list-style-type: none"> ●安心して出産できる環境をつくるため、福井勝山総合病院への支援や産婦人科と連携し事業の充実を図ってきた。今後とも病院との連携を密にし、事業を実施していく必要がある。また、あらゆる機会をとらえて、子育て世代包括支援センターや子育て支援策を周知していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●勝山市の子育て環境は素晴らしいので、ぜひ継続していただきたい。

4	子育てしながら働く女性への支援	未来創造課	<ul style="list-style-type: none"> ●働いている女性や求職中の女性に向けた講座開催を支援した。 ●啓発の一環として、他団体主催の各種講座をHP等で周知、産業フェアや市役所玄関、サンプラザにおいて、女性の就業支援等に関するリーフレットを配布、ふくい女性活躍支援センターの紹介チラシを市内で回覧した。 ●勝山市男女共同ネットワーク主催の講座では、子育て期の女性が参加しやすい体制を整えるためチャイルドルームを設置した。 【H30実績】 <ul style="list-style-type: none"> ・県労働委員会主催の「夜間労働相談会」について周知 ・再就職支援セミナー開催（19名参加 うち勝山市在住者6名） ・ふくい女性財団主催の働く女性に向けたセミナー等を市HPに掲載（6回） ・チャイルドルームの設置を支援（2回） 	<ul style="list-style-type: none"> ●他団体と連携を行う中で、毎年、再就職支援セミナーを勝山市において開催することができており、勝山市在住の参加者も確保することができた。より多くの対象者に参加を促すためにPRを行っていく。 ●リーフレット等は市内での回覧やイベントでの配布を行っている。対象者に効果的に届くよう、機会をとらえて周知啓発を行っていく。 ●チャイルドルームについては平成30年度は利用がなかった。チャイルドルームの設置は継続しながら、子育て期の男女が参加しやすいような日時・内容を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●労働力人口の減少が進む中、子育てしながら働く女性への支援を推進していくべき。
5	地域医療体制の充実・確保	健康長寿課	<ul style="list-style-type: none"> ●かかりつけ医の推進について、市民に周知するため地域に出向いて講座を行った。 【H30実績】 地域包括支援センターと共同で5回実施 447人参加 【H30実績】 医療介護人材緊急確保奨励金の交付 医療：新規3件、継続1件 介護：新規4人、継続3件	<ul style="list-style-type: none"> ●かかりつけ医の推進や医療の現状について、継続して広く市民に周知していく。 ●U・Iターン施策と連携し情報共有することで少しずつ交付者は増えている。本事業は、3年目を迎えるため効果検証をし、今後の方向性を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢化が進む中、健康に長生きすることが重要である。まずは病気にならない政策を展開するとともに、病気になっても重症化しないよう市民に啓発していただきたい。
6	特色ある教育の推進と情報発信の強化	学校教育課	<ul style="list-style-type: none"> ●環境教育やふるさと教育を柱としたESDの推進を継続し取り組んできた。取組みの一部を、市環境フォーラムや各町（文化祭等）や各校の行事の際に発表することも継続して行っている。地域行事や地域でのボランティア活動への参加率の調査結果においては、高い水準を維持しており、いずれも国・県の数値を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域を題材としたESDの推進のために、これまで構築してきた市役所や公民館、町内のまちづくり団体等とのつながりを継続していきたい。 ●小中学生が見つけた「ふるさと勝山」や地域への提案を多くの人に知ってもらうために、発信する場を工夫していきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ●勝山市の各小中学校では特色ある教育を推進しているが発信力が弱いので、市内外に向けて積極的に発信していくべき。 ●勝山高校の生徒数が減少する中で、小学校、中学校、勝山高校と段階的に盛り上げていくことで、勝山高校の魅力が向上していくと考えられる。

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	市への結婚相談件数（件） ※H27～R1累計	目標値	—	100	200	300	400	500	達成	●相談件数が多いということは、困っている人が多いということ。本来であれば、実績があまり伸びないほうが喜ばしいのではないかな。
		実績値	88	170	330	508	659			
2	市が支援したカップルの婚姻数（組） ※H27～R1累計	目標値	—	5	10	16	23	30	未達成	●結婚支援の目的は、市全体の婚姻数を増やすことである。支援したカップルの婚姻数だけでなく、全体の婚姻数の推移を把握すべき。
		実績値	5	6	8	10	11			
3	市内保育園の待機児童数（人）	目標値	—	0	0	0	0	0	達成	●待機児童が0は良いことだが、少子化が進む中、今後待機児童が出てくる可能性はないのではないかな。KPIとする必要がないのではないかな。
		実績値	0	0	0	0	0			
4	出生数に対する勝山市出産連携事業を利用した人の割合（%） ※H27～R1累計	目標値	—	42	44	46	48	50	達成	●出産支援は継続して取り組んでほしい。
		実績値	40	35.6	50.3	46.9	48.3			
5	勝山市に住み続けたい。またはいったん離れてもまた帰ってきたいと思っている中高生の率（%）	目標値	—	—	—	—	—	65%	判断時期未到来	—
		実績値	53%	—	—	—	—			

重点戦略4 豊かな地域コミュニティの中で、いつまでも健康で、安全・安心に暮らせるまちを創る

① 重点戦略に係る数値目標(KPI)

No	重点戦略に係る数値目標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	勝山市の人口(人)	目標値	—	24,360	23,990	23,640	23,310	23,000	未達成	●人口減少が進展する中、人口増に向けて様々な政策を展開することも必要だが、効果があるものを見極めて優先順位をつけることも重要ではないか。
		実績値	24,754	24,359	23,978	23,585	23,186			

② 重点施策

No	施策名	担当課	内容・実績(平成30年度)	課題と対応策(令和元年度以降)	委員の意見
1	地域医療体制の充実・確保	健康長寿課	※重点戦略3 事業No5	※重点戦略3 事業No5	—
2	健康長寿の推進	健康長寿課	<ul style="list-style-type: none"> ●元気な高齢者が虚弱になることを予防するために、フレイル予防対策を推進する。平成30年度は、まず市民に対し「フレイル」という言葉の普及啓発を行った(地区サロン:12回)。また、フレイル予防として、アンチエイジング講座やお出かけサロンにおいて、運動・栄養・口腔講座を実施した。各講座において、参加者からの質問に対し、講師から個別に運動の方法などの助言を得た。 ●「健康長寿!一番体操教室」について、実施地区に対して、毎年効果測定を行うとともに、介護予防に関する講座を行うこととし、継続支援を行った。 【H30実績】 8地区を継続支援	<ul style="list-style-type: none"> ●フレイル予防については、市民に広く普及啓発するとともに、令和元年度からリハビリ専門職を活用し、フレイルサポーターを養成することで、地区にフレイルチェックやフレイル予防の取り組みを紹介し、予防対策を推進していく。 ●健康長寿!一番体操教室は、新規実施地区が0件だったため、地区のサロンやコーディネーター等に呼びかけ、新規実施地区を募っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者が地域でいきいきと暮らせるには、高齢者自身が健康状態を把握し、自発的に健康づくりに取り組む必要があることから、引き続き啓発をしていただきたい。 ●高齢者になる前の世代から健康づくりに取り組む意識啓発も必要である。
3	高齢者支援体制の充実	健康長寿課	<ul style="list-style-type: none"> ●在宅医療・介護の連携策として、多職種連携研修会(5回)や外来看護とケアマネジャーの話し合いを実施。研修会については、医療・介護関係者に加えて、地域の民生委員や区長、一般住民等も対象とし、寸劇を通して医療と介護の実態を伝え、グループワークを行った。 ●医療依存度の高い方の介護サービスの受け入れについて、サービス事業所の実態把握を行い、研修会を実施。 ●介護認定を受けている方の自立支援を目的に、地域ケア個別会議を実施(6回、11ケース)。個別の事例毎に、現状や課題を整理し、サービス内容の検討を行った。また、会議の参加者にアンケートを実施したり、事例検討後の振り返りや地域課題の検討を行うことで、個別会議の内容の充実を図った。 ●認知症の早期発見・対応を行うために、市と各種専門家で構成する認知症初期集中支援チームを設置。30年度の支援対象者はなかったが、支援チームの活動内容について検討するための委員会を2回、支援チーム員の情報交換等を行うための連絡会を1回開催した。 ●認知症の方やその家族を支援するために、認知症相談対応(34件)や認知症カフェ(24回、延べ140人参加)、認知症家族のお話会(4回、延べ16人参加)を開催した。 ●地方創生推進交付金事業により、ケアブレイクかっちゃまが主体となって、高齢者の買い物リハビリと交通手段の確保、終活・意思を託すプロジェクトを実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ●多職種連携研修会を一般住民も対象としたことで、医療と介護の連携について地域全体で理解を深めることにつながった。今後も、内容を充実させながら、継続していく。 ●地域ケア個別会議で事例検討を継続し、また会議の振り返りを行うことで、参加者の自立支援の意識向上につながっている。 ●認知症に関する相談体制が整ってきた。さらに周知していく。 ●地方創生推進交付金事業を継続して実施する中で、医療・介護以外の民間企業等が参加して、高齢化が進む勝山市の現状を考え、市民に周知することにつながった。今後は、これまでの事業結果や課題を参考に、事業の有効性や体制整備等の検討が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ●働く世代にとって在宅の介護は大きな負担となっており、仕事を辞めざるを得ないケースもある。少しでも負担を軽減するために医療と介護の連携を強化すべき。

4	利用しやすいバス体系の整備	市民・環境・税務課	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティバスのダイヤ改正、停留所の移設等を実施した。 ●「ケア・ブレイクかつやま」との連携事業として、「わたしの時刻表」作成サービスを実施した。(平成29年度から継続) ●高齢者対象のバスの乗り方教室を実施した。(鹿谷、北郷地区) ●奥越明成高校入学者を対象にバス利用促進PR活動を実施した。 ●病院専用時刻表を作成し、病院への設置を依頼した。(芳野医院、クリニカデ深谷) ●「恐竜博物館直通便」の停留所を移設した。(利用者数：56,802人) 	<ul style="list-style-type: none"> ●継続的な市民からのニーズの把握と利用実態の検証を行い、より利用しやすいバス路線を構築する。 ●「わたしの時刻表」作成サービス、高齢者対象のバスの乗り方教室や高校入学予定者へのバス通学の説明、病院専用時刻表の作成などを通じ、バスの利用促進をPRしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ●利用者の要望に応じたサービスを充実することにより、利用者の減少を抑えることができるのではないか。
5	市民が楽しめるレジャー施設・店舗等の充実・誘致	商工観光・ふるさと創生課	<ul style="list-style-type: none"> ●令和2年オープン予定の道の駅の管理運営計画を策定した。 	<ul style="list-style-type: none"> ●道の駅については、市民利用を促進するため、使用申込方法、使用料について勝山市民を優遇する内容の管理運営仕様書を作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既に営業している旧料亭花月楼やジオターミナル、令和2年オープン予定の道の駅は、第一義には観光客向けの施設であるが、市民も利用しやすいよう運営していただきたい。
6	総合的防災体制の構築	総務課	<ul style="list-style-type: none"> ●総合的防災体制の構築に向け、下記の取組みを実施した。 【H30実績】 ・平成30年2月大雪の教訓を参考に、記録誌を作成し「雪害対策計画」を修正。 ・勝山市総合防災訓練をジオアリーナで実施。新たに地域住民がともに参加する形式の倒壊家屋対応訓練を実施し、昭和町2丁目の自主防災組織の方々に参加いただき、倒壊した家屋の下敷きになった負傷者の救助訓練や、初期消火の訓練を行った。 ・各地区での防災出前講座の実施 20ヶ所 ・自主防災組織の新規設立は旭町2丁目区、北宮地区の2組織が設立。平成30年度末現在、112地区中、63組織設立済み ・市内空き家についての対策を講じるために「空き家対策協議会」を設立。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災情報の伝達手段の多チャンネル化を検討し、特に情報弱者に防災情報を伝達出来る体制を構築する。 ●勝山市総合防災訓練では、実際の要配慮者と連携した避難訓練等を実施する等、より実証的な訓練メニューを新設する。 ●地区の防災出前講座等において、自主防災組織の役割・重要性を説明し、未設立の地区については設立を呼びかけ、運営しやすい自主防災組織連絡協議会を設立を目指す。 ●空き家についての状況把握や対策を検討するため、「区長会」や「空き家対策協議会」、その他関係機関との連携を強める。 ●福井県の想定最大規模降雨による浸水想定区域の指定や、その他の県管理河川の水害リスク図の策定に併せて勝山市ハザードマップの改訂に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地区の高齢化が進む中、共助の体制が維持できなくなりつつあることから、高齢化の進展を見据え、持続できる共助体制を検討していくべき。
7	雪と共生するまちづくりの推進	都市建設課 ジオパーク・まちづくり課	<ul style="list-style-type: none"> ●雪に係る各種支援制度について、暮らしのガイドブックや広報かつやまへの掲載を行い、地域への周知を図るとともに、区長には活動実績の写真をつけたチラシを配布し、制度の周知を図った。 ●消雪設備の地元管理に係る助成金(6地区16施設 1,024mに対して4万円~267千円を支給) ●市道等の除雪活動の助成金(3地区増27地区 6,369mに対して除雪延長に応じて270千円を支給) ●勝山市雪氷熱エネルギー利用促進協議会にて、これまで積み重ねてきた様々な知識・経験をもとに、新たに雪室商品のブランド化推進に特化した活動を行う「勝山雪室ブランド推進会議」の設立について検討を行うとともに、小中学生を対象にした雪室学習会や雪冷房実証実験、真夏の恐竜雪まつり開催に加え、雪室そばの提供や初の試みである雪室そば打ち教室の開催などを行い、雪の魅力や今後の利用可能性について発信するとともに、雪室商品のブランド化に向けた様々な取組みを行った。 【H30実績】 ・雪室学習会の開催 3回 ・雪室そばの提供 8店舗参加 ・勝山市雪氷熱エネルギー利用促進協議会の開催 5回 	<ul style="list-style-type: none"> ●暮らしのガイドブックや広報かつやまへの掲載を行い、地域への周知を図るとともに、区長には活動実績の写真をつけたチラシを配布し、引き続き制度の周知を図る必要がある。 ●追加路線の要望はあるが、地元による簡易消雪の維持管理に理解が得られず、整備できない路線もある。引き続き簡易消雪設置の条件が整った路線から試行・本設を行う。 ●雪室商品のブランド化を目的とした「勝山雪室ブランド推進会議」を立ち上げ、各々雪室商品の開発に向けた活動を行う。まずは、令和2年オープン予定の道の駅「恐竜溪谷かつやま」への出品を目指す。 ●食品分析や加工分野に強い大学等と連携し、雪室商品の衛生面の確保や付加価値向上を目指す。今後は、当組織に強い影響力や営業力、広報力等をもつ人や店舗(企業)を受け入れることにより、勝山雪室ブランド力の強化と資金面での充実を目指し、将来的には自立できる組織を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ここ2年は暖冬であるが雪に対する備えは必要である。 ●雪室に関しては、降雪量に左右されるところがあり、ここ2年間は雪集めに苦勞しているが、勝山の魅力の一つとなり得るので、今後も工夫して取り組んでいただきたい。

③ 重要業績評価指標

No	重要業績評価指標(KPI)	項目	平成26年度 (基準値)	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度 (目標値)	達成度	委員の意見
1	防災行政無線整備率(%) (音声が届く戸数率)	目標値	—	82%	84%	87%	90%	—	達成	●防災行政無線の整備はひと段落したとのことで、 今後は個別受信機等の普及率を目標としてはどうか。
		実績値	80%	90.70%	94.10%	94.80%	94.80%			
2	市内自主防災組織数(組織)	目標値	—	59	65	72	80	—	未達成	●各地区の高齢化が進む中、組織の設立は困難で あるが、防災への備えとして引き続き設立を支援し ていただきたい。
		実績値	53	55	61	61	63			
3	健康寿命の延伸(歳)	目標値	—	男78.7歳 女83.5歳	男78.7歳 女83.5歳	男78.7歳 女83.5歳	男78.8歳 女83.6歳	男78.8歳 女83.6歳	判断時期未到来	—
		実績値	男78.7歳 女83.5歳	男78.4歳 女83.9歳	男78.46歳 女83.86歳	男78.44歳 女84.38歳				

地方創生交付金等事業 効果検証調書

資料2

事業No	地方創生交付金 種別	事業名称	担当課	頁
1	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）実施計画 上乗せ交付分タイプⅡ	（仮称）勝山市観光まちづくり会社（公社）の設立事業	商工観光・ ふるさと創生課	1
2	地方創生加速化交付金	越前加賀インバウンド推進事業		2
3	地方創生推進交付金	越前加賀インバウンド受け入れ体制等整備事業		3
4	地方創生拠点整備交付金	「勝山ニューホテル」のリニューアルによるリゾートブライダル推進事業		4
5	地方創生拠点整備交付金	勝山温泉センター「水芭蕉」リニューアルによる恐竜観光周遊拠点整備事業		5
6	企業版ふるさと納税	勝山市まちなか誘客プロジェクト		
7	地方創生推進交付金	勝山市観光まちづくり株式会社によるふるさと回帰事業		
1	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）実施計画 上乗せ交付分タイプⅡ	内水面漁業振興計画の策定	農業政策課	6
2	地方創生加速化交付金	九頭竜川鮎の地域ブランド化による漁業振興		7
3	地方創生推進交付金	地域ブランド「九頭竜川勝山あゆ」を活かした観光振興事業		
1	地方創生加速化交付金	福祉発！まちの経済活性化事業	健康長寿課	8
2	地方創生推進交付金	地域包括ケアビジネススタート事業		9

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	平成30年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課		
1	(仮称) 勝山市観光まちづくり会社(公社)の設立事業	<ul style="list-style-type: none"> ●(仮称) 勝山市観光まちづくり会社設立に必要な資金・事業運営計画の策定 ●勝山市に所在の登録有形文化財「旧料亭花月楼」のリノベーションに向けた改修費用(耐震含む)を見積もるための調査実施 ●「ゆめおーれ勝山」等への無料公衆無線LAN整備 	<ul style="list-style-type: none"> ●まちなかの拠点「花月楼」に加え、平成30年に恐竜博物館前にオープンした「勝山市ジオターミナル」を勝山市観光まちづくり株式会社が一元的にマネジメントし、観光客のまちなか誘客と市全体の観光消費額の増大を図った。 			<ul style="list-style-type: none"> ●まちなかの拠点「花月楼」、恐竜博物館前にオープンした「勝山市ジオターミナル」、令和2年春オープン予定の道の駅を勝山市観光まちづくり株式会社が一元的にマネジメントし、観光客のまちなか誘客と市全体の観光消費額の増大を図る。 ●道の駅のオープンにあわせ、地方創生交付金等を活用し、市内の業者を巻き込んだ新たな土産物の開発を行う。 			商工観光・ふるさと創生課		
	交付金の種類	主な支出	事業費(円)	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け					
	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(地方創生先行型)実施計画 上乗せ交付分タイプII	<ul style="list-style-type: none"> ●商工会議所への補助金 ●公衆無線LAN工事費 	2,517,200	H27.9	H28.3	重点戦略1 施策(1)					
	勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見										
<ul style="list-style-type: none"> ●勝山市観光まちづくり(株)を中心に、「選ばれる勝山」を主眼に、勝山市の魅力をわかりやすく情報発信していくことに交付金を活用していただきたい。 											
事業No	事業名称	事業内容	平成30年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			商工観光・ふるさと創生課		
2	越前加賀インバウンド推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ●4市1町により「越前加賀インバウンド推進機構」を設立し、旅行・広告プロモーションのプロとコラボレーションした観光誘客を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●これまでの「越前加賀宗教文化街道～祈りの道～推進協議会」を発展させ、新たに官民一体となった広域的組織「越前加賀インバウンド推進機構」を設立し、観光プロモーションビデオやパンフレットの作成、インフォメーションの多言語化を図り、小松空港や関西国際空港等で活用を図ったほか、旅行・広告プロモーションのプロ(JTB)とのコラボレーションにより、海外に向けた宣伝活動、旅行商品の造成、メディア・旅行会社の招聘等を実施した。 			<ul style="list-style-type: none"> ●整備した多言語コンテンツを活用し、毎年セールスコールや招聘等を行うことにより、東アジア・東南アジアに対して継続したプロモーションを行い、越前加賀エリアの認知度向上を図る。 ●越前加賀エリアの周遊を促進する仕組みづくりを行うと同時に、訪日外国人のデータを収集・分析することによりマーケティングに活かす。 					
	交付金の種類	主な支出	事業費(円)	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け					
	地方創生加速化交付金	<ul style="list-style-type: none"> ●外国人の意向調査分析委託 ●多言語ツール制作(パンフレット・DVD・HP) ●セールスコール旅費 ●海外メディア向け広告出稿費・海外メディア記者や旅行エージェント招聘費 ●各観光施設向けインバウンドセミナー講師謝金等 	7,000,000	H28.4	H29.3	重点戦略2 施策(4)					
	本事業における重要業績評価指標(単位)			指標値	H28	H29	H30	R1		R2	事業の効果
	指標①	外国人観光宿泊客数(人)		目標値	3,500	3,800	4,150	4,550		5,000	未達成
				実績値	2,689	3,721	2,499				
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見											
<ul style="list-style-type: none"> ●PR動画「WhiteHealing」はかなり良くできているから、県内外で積極的に活用すべき。 ●各市町の観光資源を、ストーリーでつなぎ、総合的な連携策を検討してほしい。 ●大野市や永平寺町の観光資源と勝山市の観光資源は、ターゲットが似通っていると考えられるので、連携内容をしっかり検討してほしい。 											

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	平成30年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課
3	越前加賀インバウンド受け入れ体制等整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ●4市1町により設立した「越前加賀インバウンド推進機構」のDMO化を進めながら、旅行・広告プロモーションのプロとのコラボレーションやICTを活用し、外国人観光客の受け入れ体制と滞在環境の整備を進める。 【平成30年度事業（全5カ年事業）】 ・受け入れ体制・滞在型環境整備に関するシステム整備 ・観光ガイド及びコンシェルジュの育成 ・二次交通整備の運行中期計画策定 ・インフォメーション強化システム整備 ・交通拠点を活かした海外誘客戦略の策定 ・広域連携プランの商品販売及び独自運用の検討 ・海外セールスコール開催 ・海外広報・プロモーション実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●平成29年度に導入したデジタル情報スタンドのコンテンツ追加と広域観光アプリの機能追加など内容の拡充を行った。あわせて、マーケティングデータ収集システムの運用と収集データの分析を行い、今後のプロモーション戦略を策定した。 ●広域観光アプリと連携して、観光スポットにQRコードを活用した多言語の案内表示を整備した。 ●小松空港や福井港等の交通拠点を活かし、小松空港への直行便誘致活動やクルーズ会社への海外誘致活動を行った。 ●越前加賀エリアの民間事業者と連携し、海外旅行エージェントへの営業訪問や商談会の参加、旅行フェア等への出展など現地セールスコールを実施するとともに、海外各メディアに広告を掲載し、越前加賀エリアの認知度向上と誘客を図った。 ●ホームページのコンテンツを拡充し、WEBによる情報発信を強化するとともに、ターゲット国の旅行雑誌への広告掲載やメディア・旅行雑誌記者・有名ブロガー等を招聘し、越前加賀エリアの現地露出を増加させることにより、認知度向上を図った。 			<ul style="list-style-type: none"> ●域内に導入したデジタル情報スタンドや広域観光アプリ等により、外国人観光客に対して多言語による情報提供を継続して行う。また、マーケティングデータ収集基盤の運用及び収集データの分析を進め、今後のプロモーション戦略に反映させる。 ●昨年に継続し、小松空港や福井港などの交通拠点を活かし、小松空港への直行便誘致活動やクルーズ会社への誘致活動等を行う。また、二次交通各社と連携した着地型旅行商品の造成・販売を行い、各交通拠点からの周遊促進を図る。 ●機構のHP内に構築した体験予約ページに対して事業者の参画を促すほか、既存プランの磨き上げ支援を行い、体験プランの充実を図る。また、二次交通商品と体験商品をセットにした広域連携プランの造成・販売を行い、域内の消費促進を図る。 ●越前加賀エリアの民間事業者を中心に、エージェントへの営業訪問や商談会の開催など現地セールスコールを行う。 ●多言語パンフレットを増刷するほか、HPのコンテンツ内容充実や、SNSを活用したWEBプロモーションを強化する。 			商工観光・ふるさと創生課
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け			
	地方創生推進交付金	<ul style="list-style-type: none"> 下記に係る委託費 ・受け入れ体制・滞在環境整備に関するシステム整備 ・観光ガイド及びコンシェルジュ育成研修会の開催 ・インフォメーション強化システム整備 ・交通拠点を活かした海外誘客戦略推進 ・広域連携プランの商品販売 ・セールスコール開催 ・広報・プロモーション実施 	5,500,000	H28.4	R3.3	重点戦略2 施策(4)			
	本事業における重要業績評価指標(単位)		指標値	H28	H29	H30	R1	R2	事業の効果
	指標①	外国人宿泊客数（人/年間） ※増加分のみ記載	目標値	250	300	350	400	450	未達成
			実績値	△810	1,032	△1,222			
	指標②	観光入込客数（千人/年間） ※増加分のみ記載	目標値	50,000	50,000	50,000	50,000	50,000	未達成
		実績値	△37,666	181,379	△68,654				
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見									
<ul style="list-style-type: none"> ●SNSなどのビッグデータを解析し外国人観光客の行動様式を分析し、その上でターゲットを絞って、日本酒や繊維、恐竜といったコンテンツをPRするのはおもしろいのではないか。 ●外国人観光客が安心して観光できるよう、語学の得意な主婦層や学生を活用し、地域に特定した通訳の導入を検討してはどうか。 ●古民家などを活用した日本古来の生活文化等を体験することができる着地型観光メニューを開発し、積極的にPRしてはどうか。 									

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	平成30年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課		
4	「勝山ニューホテル」のリニューアルによるリゾートブライダル推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ●勝山ニューホテルを中心として市内の魅力ある観光資源を活用した勝山ならではのロケーションの中で様々な「リゾートブライダル」を提案・PRするとともに、観光地での結婚式後の披露宴会場や参加者の宿泊においてホテルを利用してもらうため、老朽化している箇所を改修を行い魅力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設長寿命化のための機械設備改修と5階客室の一部を改修を行った。 指定管理者の運営収支が初めて黒字化した。 			<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、(株)東急リゾートと連携を密にし、計画的な施設のリニューアルを行う。R1は施設長寿命化のための機械設備改修と3階客室の改修、客室備品の更新を行う。 ●それにあわせ、県外観光客の誘致やリピーターの確保に向け、MICE利用の獲得に向けた営業活動や昼食立ち寄りなど外来客使用の促進といった対策を、東急側と検討しながら展開する。 			商工観光・ふるさと創生課		
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け					
	地方創生拠点整備交付金	<ul style="list-style-type: none"> ●1階リニューアル工事 正面玄関リニューアル ロビーリニューアル レストランリニューアル 物販エリア新設 ●2階リニューアル工事 ロビー・宴会場リニューアル 6階リニューアル工事 ●スカイラウンジリニューアル 地下リニューアル工事 シャトー・クリスタルリニューアル 	97,696,400	H29.4	H30.3	重点戦略2 施策(2)					
	本事業における重要業績評価指標(単位)			指標値	H28	H29	H30	R1		R2	事業の効果
	指標①	勝山ニューホテル売上(千円) ※増加分のみ記載	目標値	41,299	12,166	3,438	6,215	4,438		達成	
			実績値	3,774	49,284	36,152					
	指標②	勝山ニューホテル婚礼組数(組) ※増加分のみ記載	目標値	0	1	1	2	2		達成	
			実績値	2	△2	2					
	指標③	勝山ニューホテル宿泊者数(人) ※増加分のみ記載	目標値	1,223	263	263	262	360		達成	
			実績値	△885	5,052	3,004					
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見											
<ul style="list-style-type: none"> ●宿泊客数、売上高は目標を大きく上回り、婚礼組数も目標を達成していることは評価できる。 ●オフシーズンの宿泊客数を増加するとともに、あわら温泉の宿泊客を勝山に引っ張ってこれるよう工夫してほしい。 											

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	平成30年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課		
5	勝山温泉センター「水芭蕉」リニューアルによる恐竜観光周遊拠点整備事業	●市民向けの健康増進施設「勝山温泉センター水芭蕉」を現在の機能を残しつつ、恐竜のイメージにマッチした新たなアミューズメント機能を有する温泉へと改修し、まち全体として進める恐竜ブランド化をさらに加速させる。	●観光客向けの情報発信としてホームページ拡充やSNSの強化、スキージャム勝山が行うジオイルミネーションと連携した集客を行い、利用者数は増えたが、客単価がのびず売上は減少した。			●飲食、宿泊機能をアップさせるリニューアルに向けた設計を行う。			商工観光・ふるさと創生課		
	交付金の種類	主な支出	事業費(円)	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け					
	地方創生拠点整備交付金	●浴室改修 ●脱衣室内装改修と機械室出入口新設 ●屋外休憩エリア新設 ●地下ピット拝観改修 ●設計監理委託	47,359,600	H29.7	H30.3	重点戦略2 施策(2)					
	本事業における重要業績評価指標(単位)			指標値	H29	H30	R1	R2		R3	事業の効果
	指標①	温泉センター水芭蕉売上(千円) ※増加分のみ記載	目標値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000		未達成	
			実績値	9,253	△ 2,071						
	指標②	温泉センター水芭蕉利用者数(人) ※増加分のみ記載	目標値	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000		未達成	
			実績値	3,183	2,248						
指標③	温泉センター水芭蕉利用者数のうち市外利用者数(人) ※増加分のみ記載	目標値	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000				
		実績値	4,525	-							
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見											
●利用者数は増加しているものの目標には届いておらず、また売上高が減少していることから利用者の声をよく聞き、利用者が増えるよう努力してほしい。											
事業No	事業名称	事業内容	平成30年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課		
6	勝山市まちなか誘客プロジェクト	●商工会議所・地元金融機関・地元の若手経営者と行政が協働して設立する勝山市観光まちづくり株式会社が実施する下記の取り組みに対し、「企業版ふるさと納税制度」により支援し、まちなかへの誘客促進や中心市街地のにぎわい再生、観光消費額の拡大(しごとづくり)を図る。 ・「伝統的な食と文化の魅力」をテーマに地元区民・商店主と連携して実施する拠点施設の整備 ・着地型観光コースの造成及び都市圏観光業者への企画提案 ・周辺観光地との二次交通手段の確保等に向けた取り組み	●まちなかの拠点「花月楼」に加え、平成30年に恐竜博物館前にオープンした「勝山市ジオターミナル」を勝山市観光まちづくり株式会社が一元的にマネジメントし、観光客のまちなか誘客と市全体の観光消費額の増大を図った。 ●大都市圏での商談会に参加し、大手旅行業者に対し、観光ツアーの提案や魅力的な観光スポットのプロモーション活動を行った。			●まちなかの拠点「花月楼」、恐竜博物館前にオープンした「勝山市ジオターミナル」、令和2年春オープン予定の道の駅を勝山市観光まちづくり株式会社が一元的にマネジメントし、観光客のまちなか誘客と市全体の観光消費額の増大を図る。 ●引き続き、大手旅行業者に対するプロモーション活動を行うとともに、まちなかイベントについては、若者から高齢の方まであらゆる方が楽しむことができるものに改良しながら、実施する。			商工観光・ふるさと創生課		
	交付金の種類	主な支出	事業費(円)	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け					
	企業版ふるさと納税	●旧料亭花月楼整備 ●まちづくり会社による着地型観光コースの造成や都市圏観光業者に対する企画・提案等の取組みに係る支援	—	H28.4	R2.3	重点戦略2 施策(2)					
	本事業における重要業績評価指標(単位)			指標値	H28	H29	H30	R1		R2	事業の効果
	指標①	まちなか誘客プロジェクトによる観光客の増加数(人) ※増加分のみ記載	目標値	2,000	12,000	16,000	22,000			未達成	
			実績値	△ 19,520	6,542	△ 48,003					
	指標②	まちなか誘客プロジェクトによる観光消費額の増(万円) ※増加分のみ記載	目標値	300	2,400	3,200	4,400			未達成	
			実績値	△ 1,358	455	△ 334					
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見											
●勝山市は、まちなかへの誘客に関しこれまで力を注いできたと思うが、有効な政策を展開できていないのではないかと。 ●長らく課題となっている恐竜博物館周辺に訪れる観光客を、まちなかへ誘導する仕組みを構築してほしい。											

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	平成30年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課		
7	勝山市観光まちづくり株式会社によるふるさと回帰事業	<ul style="list-style-type: none"> ●勝山市観光まちづくり株式会社が、市内企業や市民、マスコミ、市外（都市圏）の大学生等を巻き込み、産官学金言の連携の基に、人口の社会減に歯止めをかけるため下記の事業を実施する。 ・市内企業や商工会議所とともに市内企業のインターンシップ受入や魅力の発信に向け、ふるさと回帰研究会を開催 ・市内企業のインターンシップ受入事業の実施とPR ・市内企業に係る情報発信 ・ふるさと回帰をテーマとした映画の制作と活用 ・勝山に対する愛着心醸成のためのプロモーション動画制作 ・勝山市観光まちづくり株式会社の運営拠点の1つであり、情報発信の拠点である「ジオターミナル」の整備 ・勝山市観光まちづくり会社の地域商社化に向けた取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ●市内企業の魅力を伝えるため、情報発信コンテンツとして、企業紹介冊子「いんころ」とそれにリンクしたHPを制作した。 ●また、企業体験プログラム（インターンシップ）の内容等を伝えるパンフレットのほか、企業説明会で活用していただくためのチラシ作成を進めるとともに、企業の1日体験及び5日体験プログラムを実施した。さらに、研究会から派生した、市内企業による自発的な合同企業見学会も企画（参加者はなし）した。 ●企業支援を行うだけでなく、勝山市観光まちづくり株式会社を中心として、民間の視点から勝山市の魅力発信する地元愛情誌「ROOTs」の発行も行った。 			<ul style="list-style-type: none"> ●情報発信コンテンツとして制作した企業紹介冊子「いんころ」とそれにリンクしたHPについては、企業から非常に好評であり、新たに掲載を望む企業も出ていることから、さらなる内容の充実を図る。 ●企業の1日体験及び5日体験プログラムについては、近年の学生がインターンシップを重要視していることから、専門家を招いた「インターンシップ構築セミナー」を開催し、内容の魅力アップを図る。さらに、中高校生には、実際に市内企業の仕事を直に経験するなかで、存在を強く印象付けるべく1日企業体験を実施する。 ●引き続き、勝山市観光まちづくり株式会社を中心として、民間の視点から勝山市の魅力発信する地元愛情誌（フリーペーパー）の発行も行っていく。 			商工観光・ふるさと創生課		
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け					
	地方創生推進交付金	下記に係るまちづくり会社への委託費等 <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと創生、ふるさと回帰に向けた調査 ・地元企業インターンシップ支援事業 ・若者、学生向け企業紹介雑誌の作成 ・上記紹介企業紹介WEBページを作成 ・勝山市の素晴らしさをPRするためのフリーペーパー（地元愛情情報誌）の発行 ・ふるさと回帰をテーマとする映画の制作と活用 ・都市圏大学の芸術学科等の学生対象ショートムービー制作と活用 ・ジオターミナル活用に向けた備品整備 ・ジオターミナル活用に係る土産物開発 	22,799,468	H29.10	R2.3	重点戦略1 施策(5)					
	本事業における重要業績評価指標(単位)			指標値	H29	H30	R1	R2		R3	事業の効果
	指標①	勝山市内における新規学卒者の雇用者数（人/年間） ※増加分のみ記載	目標値	1	2	2	4	4		達成	
			実績値	5	7						
	指標②	勝山市への転入者人口数（人/年間） ※増加分のみ記載	目標値	7	8	8	9	9		未達成	
		実績値	△ 9	△ 10							
指標③	勝山市観光まちづくり会社及び関連会社の雇用者数（人/年間） ※増加分のみ記載	目標値	3	5	1	12	3	未達成			
		実績値	4	0							
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見											
●企業紹介冊子「いんころ」については、発行したことにより企業側の意欲が向上したと聞く。成人式等で配布するなど、どんどん活用してほしい。											

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	平成30年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課		
1	内水面漁業振興計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ●漁業者の収入向上に向け、アユ・イワナ等の食用淡水魚の市場全体及び内水面釣り客等の市場規模を分析し、市場の概況や今後の需給予想を立てるための調査を実施 <ul style="list-style-type: none"> ・勝山市管内における各魚種の漁獲・遊漁証発行状況等調査 ・福井県を含む全国における遊漁証発行状況及び内水面漁業振興策の状況調査 	<ul style="list-style-type: none"> ●九頭竜川鮎を地域ブランドとして確立するために策定した内水面漁業振興計画に基づき、真空包装機等の購入や「九頭竜川勝山あゆ」を活用した商品開発等ハード・ソフト両事業を展開した。その結果、売上額の増加や雇用創出（1名）につなげることができた。 			<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き、策定した内水面漁業振興計画に基づき、ハード・ソフト両観点から九頭竜川鮎を活かした漁業振興事業を展開し、令和2年度春オープン予定の道の駅において、鮎関連商品を出品できるように知名度の向上と集出荷体制の確立を図っていく。 			農業政策課		
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け					
	地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）実施計画 上乘せ交付分タイプⅡ	下記に係る勝山市漁業協同組合への補助等 <ul style="list-style-type: none"> ・清流めぐり利き鮎会への出品 ・大阪フィッシングショーへの出展 ・漁協女性部による商品開発 ・「九頭竜川勝山あゆ」の商標登録に係るセレモニー開催 ・真空包装機の購入 ・業務用冷蔵庫の購入 ・勝山市水産業振興協議会の運営 ・道の駅における出店計画の策定 	631,362	H29.10	R3.3	重点戦略2 施策(5)					
	勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見										
	●「九頭竜川勝山あゆ」の商標登録に伴い認知度が上がっていると感じられるので、この機会を逃さずブランド化に向けて取り組みを加速していただきたい。										
事業No	事業名称	事業内容	平成30年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課		
2	九頭竜川鮎の地域ブランド化による漁業振興	<ul style="list-style-type: none"> ●評価の高まっているアユを活用した漁業所得の向上を図るため、アユの安定供給体制の確保と販路開拓・ブランド化に取り組む。 <ul style="list-style-type: none"> ・アユの安定的な共同集荷、釣り客からの受入、冷凍から出荷までの体制確立に向けた準備 ・九頭竜川鮎の商標登録と商談会等への参加によるPRの実施 ・急速冷凍機や冷凍庫等の購入 	<ul style="list-style-type: none"> ●急速冷凍機や冷凍庫を整備し、改修した施設を活用して鮎の買取り・販売事業に取り組んだ。また、「九頭竜川勝山あゆ」のブランド化をさらに推進するために、先進地視察や新商品、新パッケージの開発、勝山市観光まちづくり会社との連携強化に取り組んだ。しかしながら、大雨や台風の影響で鮎が流され、漁獲高及び買取り量が減少したため、目標を達成するには至らなかった。 			<ul style="list-style-type: none"> ●新商品の開発やPRなど勝山産あゆの知名度向上につながる事業を展開しても、大雨や台風の影響に漁獲高が左右され、売上額増加につながらない面がある。河川整備などハード面から漁獲高の安定化を図りつつ、漁獲高低下による全体売上額への影響を回避するため、通年販売する鮎関連商品の開発や「道の駅」を核とした商品販売、鮎イベントの展開、全国に向けた新たな販路開拓を重点的に進め、全体の事業バランスを鮎関連商品の普及促進などソフト事業へ徐々にシフトさせるなかで、売上額の安定化を図る。 			農業政策課		
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け					
	地方創生加速化交付金	<ul style="list-style-type: none"> ●アユの安定的な共同集荷・釣り客からの受入・冷凍から出荷までの体制確立に向けた提案・実証事業の委託 ●九頭竜川鮎の商標登録 ●地域ブランド確立のためのPRツール制作とPR活動等 ●急速冷凍機や冷凍庫等の購入 	13,200,000	H28.4	H29.3	重点戦略2 施策(5)					
	本事業における重要業績評価指標(単位)			指標値	H28	H29	H30	R1		R2	事業の効果
	指標①	アユによる漁業組合の売上額（千円）		目標値	16,590	17,598	18,606	19,614		20,623	未達成
				実績値	16,918	16,382	10,016				
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見											
●漁獲高は自然に左右される面があり、売上高が不安定になることは仕方ない面もあるが、道の駅において商品化するにはある程度の安定供給が求められる。通年販売できる鮎関連商品を開発するとともに、それがブランド化につながるよう工夫していただきたい。											

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	平成30年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課	
3	地域ブランド「九頭竜川勝山あゆ」を活かした観光振興事業	<ul style="list-style-type: none"> ●鮎のブランド化と安定供給体制の確保、鮎を用いた加工品の開発、県内外への強力なPR活動を実施し、令和2年春オープン予定の道の駅や市内の飲食店等で鮎が食べられる環境を整える。それにより観光消費額の増加を図り、市内の漁業者や民間事業者等の所得向上につなげるとともに、働く場所の創出を図る。 ・急速冷凍、解凍、保存方法等の品質向上対策 ・イベント等への出店、販売 ・新商品の試作 ・各種検討会議の実施 ・道の駅における出店計画の検討 ・「九頭竜川勝山あゆ」ブランドの周知 ・食育事業や環境美化活動に係る取組み 	<ul style="list-style-type: none"> ●鮎の安定供給体制の確保を目的として、鮎の買取・販売事業を実施した。また、鮎を用いた新商品（あゆむすび、あゆ巻き、あゆサンド）の開発、新たなパッケージデザインの作成、さらに県内外へのPR活動や先進地視察等を実施した。それらの取組みが、観光消費額や雇用人数の増加の一助となっていると考える。しかし、天候不順により、鮎の漁獲高が減少し、漁協の売上額の増加には至らなかった。 			<ul style="list-style-type: none"> ●令和2年度春オープン予定の道の駅での出店に向けて、勝山市観光まちづくり株式会社等の関係機関との連携を強化し、「九頭竜川勝山あゆ」のブランド化をさらに進め、鮎の販路開拓・拡大に努める。 ●隣接する大野市漁協や奥越漁協、中部漁協、国、県等とも連携し、勝山漁区だけでなく、九頭竜川全体において鮎のブランド化の取組みを進めていく。 			農業政策課	
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け				
	地方創生推進交付金	下記に係る勝山市漁業協同組合への補助等 <ul style="list-style-type: none"> ・清流めぐり利き鮎会への出品 ・大阪フィッシングショーへの出展 ・漁協女性部による商品開発 ・「九頭竜川勝山あゆ」の商標登録に係るセレモニー開催 ・真空包装機の購入 ・業務用冷蔵庫の購入 ・勝山市水産業振興協議会の運営 ・道の駅における出店計画の策定 	2,910,000	H29.10	R3.3	重点戦略2 施策(5)				
	本事業における重要業績評価指標(単位)			指標値	H29	H30	R1	R2	R3	事業の効果
	指標①	勝山市漁業協同組合と勝山市観光まちづくり株式会社、事業に関連する民間事業者の社員雇用人数（人/年間） ※増加分のみ記載	目標値	3	7	1	14	4	達成	
			実績値	4	7					
	指標②	勝山市漁業協同組合の売り上げ額（遊漁証の販売額と鮎の販売額）（千円/年間） ※増加分のみ記載	目標値	700	750	750	750	750	未達成	
			実績値	△ 536	△ 6,402					
	指標③	観光入込客数（万人/年間） ※増加分のみ記載	目標値	5	5	5	5	5	達成	
			実績値	18	7					
指標③	観光消費額（億円/年間） ※増加分のみ記載	目標値	0.90	0.90	0.92	1.15	1.40	達成		
		実績値	3.70	△ 0.08						
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見										
<ul style="list-style-type: none"> ●勝山市漁業協同組合の遊漁証と鮎の販売額だけでは、経済的なインパクトは小さいので、鮎の関連商品をいかに開発するかが重要である。道の駅で販売することで消費者の声がダイレクトに聞けることから、消費者の声を反映した商品開発を行い、売り上げが伸びていくよう努力していただきたい。 										

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	平成30年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課		
1	福祉発！まちの経済活性化事業	<ul style="list-style-type: none"> ●医療・看護・介護・福祉等の垣根を越えて高齢者の地域包括ケアを行う任意団体（ケアブレイクかっちゃんま）の活動を充実・強化し、介護保険等では対応できない高齢者の生活ニーズを把握し、それを地域経済の活性化に結び付ける。 ・高齢者の生活ニーズ調査実施 ・事業実施主体（ケアブレイクかっちゃんま）と事業賛同の地元業者が高齢者ニーズを情報共有し、それをマッチングにつなげるためのHP作成 ・高齢者の生活を支援する商品開発 ・買い物支援等の事業に携わるボランティア等の人材育成に向けた研修や講演会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●地方創生加速化交付金事業としては、平成28年度で終了しており、その取組みを発展させ、「地域包括ケアビジネススタート事業」を行っている。 			<ul style="list-style-type: none"> ●引き続き地域包括ケアビジネススタート事業を推進する。 			健康長寿課		
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け					
	地方創生加速化交付金	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢者の生活ニーズ調査 ●情報共有・啓発用HP作成 ●高齢者お守りファイルの開発 ●買い物リハビリ導入事業 ●ファミリーーター養成講座事業 ●介護・終活フェア 	9,423,001	H28.4	H29.3	重点戦略4 施策(3)					
	本事業における重要業績評価指標(単位)			指標値	H28	H29	H30	R1		R2	事業の効果
	指標①	健康寿命の延伸（歳）	目標値 男78.4 女83.9 実績値 男78.46 女83.86	男78.44 女84.38			男78.8 女83.6				判断時期未到来
	指標②	ケアブレイクの事業に賛同し認証を受けた事業所数（社）	目標値 10 実績値 18	12 23	15 21	20				達成	
	指標③	買い物支援サービスを利用した高齢者の数（人）	目標値 10 実績値 5	30 17	60 82	100				達成	
	指標④	お助けマン(ボランティア)の養成数（人）	目標値 20 実績値 0	25 6	35 11	40				未達成	
	勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見										
	●高齢化が進む中、地域で高齢者を支えあう体制づくりは必要である。なり手が少ないかもしれないが、お助けマン(ボランティア)の養成はぜひ継続していただきたい。										

地方創生交付金等 効果検証

事業No	事業名称	事業内容	平成30年度の取組内容と実績			実績値を踏まえた事業の今後の方針			担当課	
2	地域包括ケアビジネススタート事業	<p>●医療・看護・介護・福祉等の垣根を越えて、高齢者の地域包括ケアを実践する任意団体「ケアブレイクかっちゃん」の活動を充実・強化することにより、介護保険等では対応できない高齢者の生活ニーズを正確に把握し、民間企業へフィードバックすることで新たなサービスを構築し、地域経済の活性化につなげていく。</p> <p>【平成30年度事業（全2カ年事業）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心市街地に位置する市内唯一のショッピングセンターで買い物をしながらリハビリに取り組むシステムの構築 ・買い物後に商品を自宅まで自力で持ち帰れない高齢者向けの宅配システムにかかるニーズを調査・研究し、地元企業・商店とのマッチングによる新たなサービス提供システムを構築 ・終末期のニーズ把握や終活に関する相談に対応できるアドバイザー等の人材育成 	<p>●高齢者の買い物と交通手段の確保</p> <p>①買い物リハビリ試行事業 地区サロンにおいて、地域住民や介護保険施設の協力を得て実施（1地区実施。）</p> <p>②買い物ボランティア養成事業（H30.10.25開催） 11名参加 ボランティアや買い物リハビリカートの使用方法に関する研修会の開催</p> <p>③買い物宅配システム開発事業 研究会3回開催</p> <p>④公共交通検証会議 3回</p> <p>●終活、意思を託すプロジェクト</p> <p>①地域包括フェア ・H30.9.19開催（72名参加） ・H30.11.11開催（400名参加、出展者数 17団体）</p> <p>②終活コーディネーターによる終活相談会（年7回 105人参加）と相談対応 3件実施。</p> <p>③終活アドバイザー養成（7月～3月にかけて、運営会議や各種事業に参加することで、終活に関する知識を身につける。）</p>			<p>●指標①②については、ショッピングセンター自体の店舗の変更等により、目標よりも実績が少なくなった。</p> <p>●30年度の買い物リハビリ試行事業は、地域住民を対象として、地域や介護保険施設等の協力を得て実施する方法を検証することができた。29年度は介護サービスを利用している方を対象として行っており、今後は29・30年度の実施結果を踏まえ、対象者に合わせた買い物リハビリの必要性と方法を再検討し、体制づくりにつなげていく。</p> <p>●買い物宅配システム、公共交通検証では、事業者からの利用者への情報伝達と利用者が事業者にニーズを伝達する方法として、通信ツールの活用を検討することになった。このツールの活用については、コストや実用性等の課題があげられ、さらに検討が必要である。また買い物宅配では、通信ツールの活用に合わせて、商品運搬体制についても検討が必要である。</p> <p>●終活フェア・終活相談会については、引き続き、終活についての普及啓発を行っていくために、福祉フェスタなどのイベント等を活用して継続できるようにしていく。</p>			健康長寿課	
	交付金の種類	主な支出	事業費（円）	開始年度	終了年度	総合戦略の位置付け			健康長寿課	
	地方創生推進交付金	<ul style="list-style-type: none"> ●買い物リハビリ試行事業 ●買い物ボランティア養成事業 ●買い物宅配システム開発事業 ●公共交通検証会議 ●地域包括フェアの開催 ●終活相談の実施 ●終活アドバイザー養成 	2,771,500	H29.6	R1.3	重点戦略4 施策(3)				
	本事業における重要業績評価指標(単位)		指標値	H29	H30	R1	R2	R3	事業の効果	健康長寿課
	指標①	ショッピングセンター売上額（万円） ※増加分のみ記載	目標値	12,175	3,498	3,568	3,640	3,731	未達成	
			実績値	5,910	△ 2,865					
	指標②	ショッピングセンター客数（人） ※増加分のみ記載	目標値	29,804	17,981	18,341	18,707	19,082	未達成	
		実績値	36,340	△ 5,848						
指標③	買い物支援サービスを利用した高齢者数（人） ※増加分のみ記載	目標値	10	10	10	10	10	達成		
		実績値	17	65						
勝山市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議 委員の意見										
●ケアブレイクが中心となって、商工会議所や地元事業者と連携しながら、高齢者のお買い物支援(注文・宅配・集金)のシステムの構築を目指してほしい。										